

『福山大学経済学論集』  
第44巻  
(2020年3月) 抜刷

## UNIVAS 設立後の大学スポーツの展開に関する一考察

吉田卓史

# UNIVAS 設立後の大学スポーツの展開に関する一考察

吉田卓史<sup>1</sup>

これまでの大学スポーツは学生主体の組織として積極的に大学当局が関することは多くなかった。そのため指導者の体罰や不明瞭な会計などクラブ内での問題が度々発生し、その責任の所在は曖昧であった。そこでスポーツ庁は 2019 年 4 月に大学スポーツの統括組織である「一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)」を設立した。目的は学生が安心安全にスポーツに取り組める環境整備と学修支援体制の構築である。さらに大学ブランディングと収益化、地域貢献活動を推進し、大学スポーツの価値を高めることを目的としている。大学内にアスレチックデパートメントの設置も推進している。

そこで本論文では大学スポーツについて現状と課題を抽出するとともに今後の発展の方向性について考察してみる。

キーワード：大学スポーツ UNIVAS アスレチックデパートメント

## 1. はじめに

令和元年に日本で開催されたラグビーワールドカップは日本中を熱狂の渦に巻き込み、感動と称賛の中南アフリカの優勝で幕を閉じた。最高視聴率も 40%を超えるなど日本代表の活躍もあり改めてスポーツのコンテンツとしての価値を感じる事となった。2020 年には東京オリンピックを控え益々スポーツに関わる時間が増えると予想され、スポーツを文化として定着させるきっかけになると思われる。ラグビー日本代表は ONE TEAM を合言葉に多様な国籍を持つ選手たちで構成されている。内訳をみると代表選手 31 名のうち外国出身の選手は 15 名 (6 カ国) で約半数を占める。また出身校をみると日本の大学を卒業した選手は 24 名 (外国の大学 2 名、外国の高校 4 名、日本の高校 1 名) と大学出身者が多数を占める。オリンピック、プロ野球、J リーグ等で大学出身の選手たちの活躍が多く見られるとともに、指導者、競技団体役員、審判、スポンサー等様々な役割も担っている。箱根駅伝や東京六大学野球を中心に注目を浴びる大学スポーツもあり、日本における大学スポーツの価値は非常に高いと言える。その一方 2018 年に起こったアメフトの悪質タックル問題など大学スポー

<sup>1</sup> 福山大学経済学部経済学科 yoshida@fukuyama-u.ac.jp

ツの負の側面も露呈している。このような状況を踏まえ、大学スポーツの価値を更に向上するとともに現在抱えている諸問題を解決すべく新たな統括組織がスポーツ庁中心に 2019 年に設立された。そこで本論文では新しいステージに入った大学スポーツについて現状と課題を抽出するとともに今後の発展の方向性について考察してみる。

## 2, 大学スポーツの現状と課題

平成 29 年に文部科学省が策定した第 2 期スポーツ基本計画では、1, スポーツで「人生」が変わる、2, スポーツで「社会」を変える、3, スポーツで「世界」とつながる、4, スポーツで「未来」をつくるの、4 つの概念を基本とし、大学スポーツについても以下のように提言している。政策目標として、「我が国の大学が持つスポーツ資源を人材輩出、経済活性化、地域貢献等に十分活用するとともに、大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築を目指す」を掲げ、具体的施策として大学スポーツの重要性について大学トップ層等大学関係者全体の理解の促進、大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する部局の設置や人材の配置を支援し大学内での体制整備を促進、大学スポーツアドミニストレータ配置目標を 100 大学、学生アスリートのキャリア形成・学習支援等の推進そして大学及び学生競技連盟等を中心とした大学横断的かつ競技横断的統括組織の創設が明記されている。つまり大学スポーツもこれまでのような個別の部活動の取り組みとして考えるだけでなく大学としてあるいは国としてあるいは競技団体全体での発展を目指すとともにそれぞれを横断的につなぐ組織体制、支援体制を構築し協力しあう時代へと変革している。

金森 (2018) <sup>2</sup>は体育会運動部活動を通して学生が習得したと認識した事柄について調査し、対人関係に関すること、内面に関することいずれも習得していると認識しているとし、体育会運動部活動の意義を確認できたとしている。

大学スポーツの現状を整理してみる。大学で部活動は課外活動として、各大学の学生課で管轄されている。正課外活動であるため原則学生の自治活動として捉えられており、その運営も学生中心に行われているのが現状である。学生主体であるため、大学当局は直接的に運営等に携わることがない。学生たちが主体的に活動できる利点がある一方、大学当局の関わりが限定的でありその活動は運動部側に依存している理由から運動部内部での問題が明るみになりにくい状況がある。その結果指導者や上級生によるパワハラや不透明な会計処理、責任の所在の曖昧さなどの問題が未だに多くあるのが現状である。

そこで大学スポーツを取り巻くステークホルダーについて整理してみる。大学スポーツを

---

<sup>2</sup> 金森 蛭田 (2018)

中心とすると、まず学内において当該クラブへ所属している学生、クラブのスタッフ指導者、統括している部局（学生課等）、法人組織、一般学生、一般教員があげられる。また学外では、各競技団体、行政及び地域のスポーツ連盟等、地域住民、保護者、スポンサー等関連企業などがあげられる。（図1）現在多くの部活動では基本所属学生とクラブスタッフ指導者との関係で主として活動している。統括している部局は体育会あるいは学生課等であり「課外活動」として学生が運営の主体となっている。大学当局としての関与は少なく戦略的位置づけとして大学スポーツを捉えていない一方で、定員確保の一環として多くの大学がスポーツ推薦入試制度を導入し多くの学生アスリートが入学している。受け入れた各学部学科での学習支援体制、教員側の意識、また一般学生の体育会サークルに対する意識などでミスマッチングが生まれているのが現状である。そこで学内の大学スポーツに関する意識を統一し運営を円滑に進める部署の整備が必要である。さらにそれぞれの大学での取り組みを統括する組織として日本版 NCAA である UNIVAS の設立が求められた。

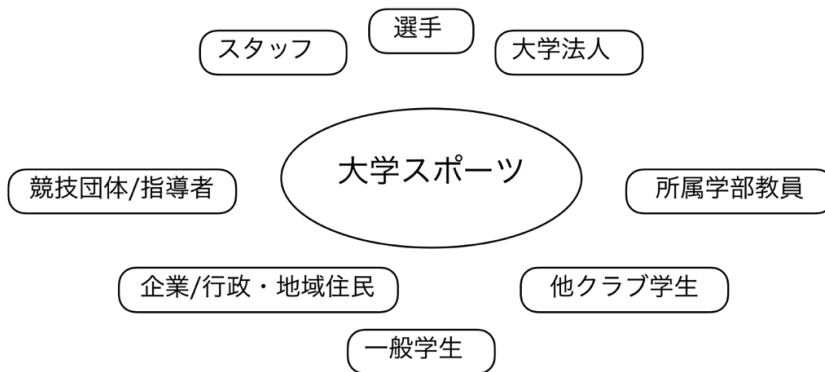


図1 大学スポーツのステークホルダー

## 2.2 日本版 NCAA 設立の経緯

平成 28 年 4 月に第 1 回の大学スポーツ振興に関する検討会議が開催される。ここでは検討課題として以下の 5 つがあげられた。

- 1, 大学トップ層の理解の醸成
- 2, 大学スポーツのビジネス化
- 3, スポーツ教育、スポーツ研究の充実
- 4, 学生アスリートのデュアルキャリア支援
- 5, 大学スポーツの地域貢献

その後数回の会議を経て平成 29 年 3 月に「大学スポーツの進行に関する検討会議最終とりまとめ～大学スポーツの価値向上に向けて～」とした報告の中で大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版 NCAA）の創設の検討がスタートする。平成 29 年 9 月には第 1 回の日本版 NCAA 創設に向けた学産官連携協議会が開催され、日本版 NCAA 創設に向けた具体的な議論が始まる。さらに同年 7 月には日本版 NCAA 設立準備委員会が立ち上がり、平成 31 年 3 月 1 日に正式に一般社団法人大学スポーツ協会（通称 UNIVAS）が設立された。

### 2.3 一般社団法人大学スポーツ協会

- (1) 設立年月日：平成 31 年 3 月 1 日
- (2) 設立理念：大学スポーツの振興により「卓越性を有する人材」を育成し大学ブランドの強化及び競技力向上を図る。もって、我が国の地域・経済・社会の更なる発展に貢献する。
- (3) 加盟大学：設立時 219 大学（令和元年 10 月現在 222 大学） 34 競技団体
- (4) 主な役割：学業充実 学業基準の策定・普及、e-learning プログラムの策定・普及、キャリア形成支援プログラムの策定・普及、学業優秀者表彰の創設、学生アスリートの向け奨学金制度の創設 安心安全 安全・安心ガイドラインの策定普及、相談窓口の設置、スポーツ医学の研究、データベースセンターの構築、保険加入支援キャンペーンの実施、コンプライアンス・ガイドラインの策定普及、学生アスリート健康状況調査と結果公表、指導者への各種研修の実施
- (5) 事業マーケティング：競技横断的の大学対抗戦の開催（既存大会を前提としたポイント制）、地域ブロックにおける大会運営の助成、競技日程・競技映像のインターネット配信、大学におけるアスレチックデパートメント設置やスポーツアドミニストレータ配置に係るガイドライン策定、スポーツ優秀者表彰の創設、競技力向上のための助成金制度の創設、会計管理に関わる先行事例集の作成、ビッグデータを活用したサービス開発・提供、国際競技会の開催

### 2.4 UNIVAS と競技団体

大学スポーツ協会では、各大学との連携だけでなく各競技団体との連携も強化している。これまでは各競技団体が独自に大会を運営し規則等を決定していたが、ここでも横の連携を図ることで、統一的な見解のもとお互いに協力し合いながら大学スポーツを強化運営していくことを目的としている。2019 年 11 月現在 31 の競技団体が加盟している。（表 1）

さらに競技横断的の大学対抗戦として「UNIVAS CUP」を開催し、各競技の全国大会の成績をポイント化し、年間表彰を行う予定である。UNIVAS 加盟 31 競技団体が開催する全国大会のうち、全国の大学が参加し大学日本一を決する目的の大会につき、原則として 1 競技 1 大会を「UNIVAS CUP 2019-20」指定大会として設定。該当指定大会の順位に応じて各大学は UNIVAS

ポイントを獲得、指定 31 大会でのポイント獲得総数によって大学総合順位を決定。成績上位大学に対しては年度末に表彰を行う。さらにより多くの方々へ大学スポーツを知ってもらえるよう公式サイトにて無料で動画配信を行う。

表1 UNIVASCUP 2019指定競技全国大会

競技	主催団体	大会名
1 野球	公益財団法人全日本大学野球連盟	全日本大学野球選手権大会
2 アーチェリー	全日本学生アーチェリー連盟	全日本学生アーチェリー王座決定戦
3 トライアスロン	公益社団法人日本トライアスロン連合	日本U23トライアスロン選手権
4 ソフトテニス	日本学生ソフトテニス連盟	全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会
5 テニス	全日本学生テニス連盟	全日本学生テニス選手権大会
6 なぎなた	公益財団法人全日本なぎなた連盟	全日本学生なぎなた選手権大会
7 カヌー	全日本学生カヌー連盟	全日本学生カヌースプリント選手権大会
8 レスリング	全日本学生レスリング連盟	文部科学大臣杯全日本学生レスリング選手権大会
9 ソフトボール	全日本大学ソフトボール連盟	全日本大学ソフトボール選手権大会
10 ボート	公益社団法人日本ボート協会	全日本大学選手権大会
11 水泳	公益財団法人日本水泳連盟	日本学生選手権水泳競技大会(競泳)
12 フライングディスク	一般社団法人日本フライングディスク協会	全日本大学アルティメット選手権大会
13 柔道	一般財団法人全日本学生柔道連盟	全日本学生柔道体重別選手権大会
14 ライフル射撃	日本学生ライフル射撃連盟	全日本学生スポーツ射撃選手権大会
15 サーフィン	一般社団法人日本学生サーフィン連盟	全日本学生サーフィン選手権秋季大会
16 ホッケー	日本学生ホッケー連盟	全日本学生ホッケー選手権大会
17 ゴルフ	日本学生ゴルフ連盟	信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦
18 馬術	公益社団法人日本馬術連盟	全日本学生馬術大会
19 アメリカンフットボール	公益社団法人日本アメリカンフットボール協会	全日本大学アメリカンフットボール選手権
20 少林寺拳法	一般財団法人少林寺拳法連盟	少林寺拳法全日本学生大会
21 ハンドボール	全日本学生ハンドボール連盟	全日本学生ハンドボール選手権大会
22 オリエンテーリング	公益社団法人日本オリエンテーリング協会	日本学生オリエンテーリング選手権
23 空手	一般財団法人全日本学生空手道連盟	全日本大学空手道選手権大会
24 ウェイトリフティング	公益社団法人日本ウェイトリフティング協会	全日本大学対抗(女子)ウェイトリフティング選手権大会
25 バレーボール	一般財団法人全日本大学バレーボール連盟	全日本バレーボール大学男女選手権
26 ラグビー	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	全国大学ラグビーフットボール選手権大会
27 バスケットボール	一般財団法人全日本大学バスケットボール連盟	全日本大学バスケットボール選手権大会
28 スポーツチャンバラ	一般社団法人日本スポーツチャンバラ学生連盟	全日本学生スポーツチャンバラ選手権大会
29 ボクシング	一般社団法人日本ボクシング連盟	全日本大学ボクシング王座決定戦
30 スキー	公益社団法人全日本学生スキー連盟	全日本学生スキー選手権大会
31 グライダー	公益財団法人日本学生航空連盟	全日本学生グライダー競技大会

#### 2.4.1 主要競技全国大会における出場チームの UNIVAS 参加状況

大学野球の場合、第 68 回全日本大学野球選手権（2019 年 6 月@明治神宮野球場、東京ドーム）では出場全 27 大学のうち UNIVAS 加盟大学は 23 大学、非加盟大学 4 大学で 85%が加盟している。また第 50 回記念明治神宮野球大会大学の部（2019 年 11 月@明治神宮野球場）では出場 11 大学のうち UNIVAS 加盟大学は 9 大学、非加盟大学は 2 大学で約 82%が加盟している。サッカーでは 2019 年度第 43 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントでは出場 24 チーム中 UNIVAS 参加大学が 20 大学、非加盟大学が 4 大学で 83%の大学が加盟している。また 2019 年度第 68 回全日本大学サッカー選手権大会では出場 24 大学のうち 17 大学が加盟、加盟率は 70.8%となっている。

主要競技において全国大会出場している大学の多くは UNIVAS に加盟しており、学生アスリートが最大限活躍できるような大学をあげての支援体制の構築を目指していると思われる。次に主要競技の地域リーグ 1 部に所属している大学の UNIVAS 加盟状況を表 2 に表す。サッ

カーの場合、各地域リーグ1部に所属している大学のUNIVAS加盟率は全国で71.6%、野球の中国四国地区の加盟率は72.2%と7割以上がUNIVASに加盟している。一方それぞれの競技の2部リーグに所属する大学ではサッカーの場合88大学中43大学の48.9%、野球の中国四国地区では21大学中7大学の33.3%となり、上位リーグに所属する大学の加盟率が高いことが分かる。1部に所属し全国大会の出場を目標とする場合、選手確保、指導体制及び施設の充実が求められる。その中で学生アスリート支援を目指し、大学スポーツの価値向上を目指すUNIVASへの加盟は当然の流れである。サッカー、野球とも中国地区の1部所属大学のUNIVAS加盟率は全国で最も低くなっている。なお、令和2年1月に開催される箱根駅伝では出場20大学のうち、加盟が14大学の70%となっている。その一方で明治大学、筑波大学、慶應義塾大学などのUNIVAS非加盟大学では後述するような大学独自の大学スポーツ統括組織であるアスレチックデパートメントを学内に整備し、学長直轄での支援体制を構築している。

表2-1 UNIVAS加盟状況サッカー各地域リーグ(1部)

地域	1部加盟	UNIVAS	%
北海道	8	6	75.0
東北	8	5	62.5
関東	12	7	58.3
北信越	8	7	87.5
東海	12	9	75.0
関西	12	10	83.3
中国	10	4	40.0
四国	6	6	100.0
九州	12	9	75.0
合計	88	63	71.6
2部リーグ合計	88	43	48.9

表2-2 UNIVAS加盟状況野球各地域リーグ(1部)

地域	1部加盟	UNIVAS	%
広島六大学	6	5	83.3
中国六大学	6	2	33.3
中国地区	6	6	100.0
東京六大学	6	3	50.0
東都大学野球	6	4	66.7
首都大学野球	6	4	66.7
関西六大学	6	4	66.7
関西学生野球	6	3	50.0
愛知大学野球	6	6	100.0
中国四国地区	18	13	72.2
中国四国2部	21	7	33.3

表3-1 2019年度中国大学サッカーリーグ1部UNIVAS加盟状況

UNIVAS加盟	IPU環太平洋大学 広島大学 広島修道大学 広島経済大学
UNIVAS非加盟	吉備国際大学 岡山大学 福山大学 福山平成大学 徳山大学 鳥取大学

表3-1 2019年度中国地域 大学野球UNIVAS加盟状況

UNIVAS加盟	IPU環太平洋大学 岡山商科大学 広島大学 広島国際学院大学 広島修道大学 広島経済大学 近畿大学工学部
UNIVAS非加盟	吉備国際大学 福山大学 徳山大学 東亜大学 広島工業大学

表4 UNIVAS加盟状況\_大学野球全国大会  
令和元年度第68回全日本大学野球選手権大会

	地区	大学名	UNIVAS
1	北海道学生野球連盟	東京農業大学北海道オホーツク	○
2	札幌学生野球連盟	星槎道都大学	○
3	北東北大学野球連盟	八戸学院大学	○
4	仙台六大学野球連盟	東北福祉大学	○
5	南東北大学野球連盟	東日本国際大学	○
6	千葉県大学野球連盟	城西国際大学	○
7	関甲新学生野球連盟	上武大学	○
8	東京新大学野球連盟	創価大学	○
9	東京六大学野球連盟	明治大学	
10	東都大学野球連盟	東洋大学	○
11	首都大学野球連盟	東海大学	○
12	神奈川大学野球連盟	桐蔭横浜大学	○
13	愛知大学野球連盟	愛知工業大学	○
14	東海地区大学野球連盟	中京学院大学	○
15	北陸大学野球連盟	福井工業大学	○
16	関西学生野球連盟	立命館大学	○
17	関西六大学野球連盟	大阪商業大学	
18	阪神大学野球連盟	大阪体育大学	○
19	近畿学生野球連盟	大阪工業大学	○
20	京滋大学野球連盟	佛教大学	
21	広島六大学野球連盟	近畿大学工学部	○
22	中国地区大学野球連盟	環太平洋大学	○
23	四国地区大学野球連盟	高知工科大学	○
24	九州六大学野球連盟	福岡大学	○
25	福岡六大学野球連盟	九州産業大学	○
26	九州地区大学野球連盟 北部	日本文理大学	○
27	九州地区大学野球連盟 南部	宮崎産業経営大学	
			85.20%

令和元年度第50回記念明治神宮野球大会(大学の部)

	地区	大学名	UNIVAS
1	北海道二連盟代表(1校)	東海大学札幌キャンパス	○
2	東北三連盟代表(1校)	東北福祉大学	○
3	東京六大学野球連盟代表	慶應義塾大学	
4	東都大学野球連盟代表	中央大学	○
5	関東五連盟代表(2校)	城西国際大学	○
6		東海大学	○
7	北陸・東海三連盟代表(1校)	金沢学院大学	○
8	関西五連盟代表(2校)	関西大学	○
9		大阪商業大学	
10	中国・四国三連盟代表(1校)	広島経済大学	○
11	九州三連盟代表(1校)	九州産業大学	○
			82%



表5: UNIVAS加盟状況\_大学サッカー

2019年度第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント			
	地区	大学名	UNIVAS
1	北海道	北海道教育大学岩見沢	○
2		北海学園大学	
3	東北	仙台大学	○
4	北信越	新潟医療福祉大学	○
5	関東	明治大学	
6		立正大学	
7		駒沢大学	○
8		筑波大学	
9		法政大学	○
10		順天堂大学	○
11		拓殖大学	○
12	東海	静岡産業大学	○
13		東海学園大学	○
14		中京大学	○
15	関西	びわこ成蹊スポーツ大学	○
16		関西大学	○
17		大阪経済大学	○
18		大阪体育大学	○
19	中国	IPU環太平洋大学	○
20	四国	高知大学	○
21		四国学院大学	○
22	九州	福岡大学	○
23		鹿屋体育大学	○
24		日本理科大学	○
			83.30%

2019年度第68回全日本大学サッカー選手権			
	地区	大学名	UNIVAS
1	北海道	北海道教育大学岩見沢	○
2	東北	東北学院大学	○
3		仙台大学	○
4	北信越	新潟医療福祉大学	○
5		北陸大学	○
6	関東	明治大学	
7		桐蔭横浜大学	○
8		立正大学	
9		法政大学	○
10		中央大学	○
11		筑波大学	
12	東海	東海学園大学	○
13		中京大学	○
14		常葉大学浜松	
15	関西	大阪体育大学	○
16		びわこ成蹊スポーツ大学	○
17		関西学院大学	
18		桃山学院大学	○
19	中国	IPU環太平洋大学	○
20		福山大学	
21	四国	高松大学	○
22	九州	福岡大学	○
23		鹿屋体育大学	○
24		宮崎産経大学	
			70.80%

### 3, 大学内での体育会スポーツクラブの位置づけ\_アスレチックデパートメント

体育系のサークル及び部活動は、教育機関では「課外活動」として位置付けられているケースが多い。神戸大学<sup>3</sup>の場合「大学における課外活動とは、学生の自主活動であり、この活動主体となる課外活動団体は、学生の自由意志により結成され、自由意志によって加入し、自主的に活動を行うもの」とされるなどサークル及び部活動は体育系、文化系に関わらず学生課が主管しているケースが多い。福山大学<sup>4</sup>の場合、「福山大学学友会」という学生主体の組織があり、福山大学の学生全員が正会員、教職員が賛助会員として定められている。福山大学学生便覧によると学友会は学生生活を有意義にするべく、文化・体育等の諸活動（行事）を組織的に行う（企画・運営をする）とともに、会員の福利厚生と広く社会に貢献すること

<sup>3</sup> 神戸大学 IIP 教育学生活動\_課外活動

<sup>4</sup> 福山大学学生便覧

を目的としている。学生主体の組織であるため所属している学生とそのスタッフとで完結するある意味閉鎖的な組織になりがちであり、大学側の関与度も低くなる。大学スポーツが最も発展しているアメリカでは各大学内にアスレチックデパートメント（体育局）があり、大学内のスポーツを統一的に管轄、学生アスリートのスポーツ及び学修支援体制を構築するとともに独立採算を基本として、収益を確保できる組織となっている。そして各大学のアスレチックデパートメントを統括する組織として NCAA が設立されている。日本においても日本版 NCAA の設立と同時に、いくつかの大学では体育会を統括するアスレチックデパートメントを設立し大学スポーツ振興を目指す事例が増えてきている。

#### <筑波大学アスレチックデパートメント<sup>5)</sup>>

筑波大学では体育専門学群を中心に様々な競技において日本でもトップクラスの選手を育成するとともに指導者の養成にも力を入れていた。さらに以下に掲げる事象の実現を目指し学長直下のアスレチックデパートメントの設立を目指す準備委員会を 2017 年に立ち上げる。スポーツを通じて社会、地域、学生生活をより豊かにすることを大義として 2016 年 11 月には米国アンダーアーマーの日本総代理店である株式会社ドームと包括的パートナーシップを結ぶ。さらにスポーツアドミニストレータを雇用して準備を進める。各部活動との面談を経て 2018 年に正式に発足をする。筑波大学アスレチックデパートメントではこれまで課外活動であった部活動を「全学の資産」へと組み直し、大学とチームが一体となって「健全化」と「最大化」を両立した「最高のスポーツプログラム」を作り出すことを理念とし、健全化では「人事・会計の大学統合」「安心安全の徹底」「人材育成プログラムの展開」最大化では「全学を巻き込んだ構築」「主催ゲームの開催」「地域社会との一体化」を目指している。具体的な施策として、指導者の大学との契約、部活横断的なアスレチックトレーナーを大学で雇用し、学生アスリートのサポートを充実させている。さらに学生アスリートの学業基準に規定したアワードの制定、リーダーとなるべき学生の米国研修派遣、大学アスレチックデパートメントのロゴマーク、マスコットの制定、複数大学神戸の実践型シンポジウムの開催、映像や画像の整備と WEB サイトでの情報発信等大学をあげての部活動支援体制を強化している。

#### <大阪体育大学スポーツ局<sup>6)</sup>>

筑波大学と同じく 2018 年 4 月に設立。大学が有するスポーツに関する教育・研究機能を有効に活用し、学生スポーツの競技水準の向上、スポーツ活動を通じた人材育成・教育、そ

<sup>5)</sup> 筑波大学アスレチックデパートメント <https://athletics.tsukuba.ac.jp/>

<sup>6)</sup> 大阪体育大学スポーツ局 <https://ouhs-athletics.jp/>

して広くスポーツの振興・発展に向けた学内外での活動を管理・運営・支援することを目的に設置。事業内容は1, 運動クラブの統括（強化・支援・評価・管理）2, アスリートの選抜・確保・支援・育成・強化、3, 運動クラブやアスリートの競技力向上に係る指導者やスタッフの支援と活動環境の整備、4, 学生アスリートの修学、キャリア形成、生活の支援、5, 実践的なスポーツ科学研究及び教育の推進とその環境、体制の整備、6, 中高大連携の促進を通じた中長期的なスポーツ人材育成システムの構築、7, 地域社会の健康増進やスポーツ振興に資する事業の企画・推進を通じた拠点づくりの実現、8, スポーツ局の所管事項に係る広報活動及び卒業生や他機関との連携、ネットワーキング、9, 本学の運動クラブやアスリート及びスポーツ局が行う事業のブランディングやその管理、10, その他スポーツ局に関することである。大阪体育大学のスポーツ局は、局長以下スポーツアドミニストレータを配置し、その下に予算労務管理を担当するスポーツ局部長、さらにアスレチック担当、戦略・渉外・マーケティング担当を配置し学生アスリート支援の体制を強化している。

#### <早稲田大学競技スポーツセンター<sup>7</sup>>

早稲田大学は早稲田大学競技スポーツセンターを2003年4月に設置し、体育各部を統括するとともに、学内外の諸機関との連携を図り、体育各部の活動を支援すること、スポーツ振興に寄与することを目的として事業活動をおこなっている。44の体育部活動に約2600名の学生アスリートが所属している。主な事業内容は1, 体育各部の強化に関する事項、2, 体育各部の財政支援に関する事項、3, スポーツ施設等の設置管理運営に関する事項、4, その他センターの目的達成に必要な事項である。競技スポーツセンターには1名の所長、3名の副所長に加え専従職員6名と2名のスポーツアドミニストレータを配置し支援を行っている。特徴的な取り組みとして「早稲田アスリートプログラム（WAP）を実施し、学生アスリートの修学支援、人格陶冶、競技生活の充実を目的として教育活動を行っている。就学支援プログラムの一つは学業情報管理で、競技スポーツセンターが体育各部学生の学業情報を管理し4年間で卒業を目標として単位数を設定、要指導単位数を下回った学生に対しては指導を、最低基準単位数を下回った学生に対しては警告、2学期以上連続で下回った学生は練習の制限等の措置を含めた指導を行っている。逆に褒賞プログラムとして以下のような成績優秀者を褒賞している。1, 最優秀学業成績団体賞：部員の年度GPAが最も高い部、2, 優秀学業成績団体賞：部員の年度GPAが2位、3位の部、3, 最優秀学業成績個人賞：4年で卒業する部員のうち最も高い通算GPAを獲得した者、4, 優秀学業成績個人賞：4年で卒業する部員のうち上位10%の通算GPAを獲得した者、5, 年間最優秀学業成績個人賞：3年生以下の

<sup>7</sup> 早稲田大学競技スポーツセンター <https://www.waseda.jp/inst/athletic/>

学年ごとに、当該年度履修科目において部員のうち最も高い年度 GPA を獲得した者、6、年間優秀学業成績個人賞：年生以下の学年ごとに、当該年度履修科目において部員のうち上位 10%の年度 GPA を獲得した者

多く大学で学内にスポーツ局の設置とスポーツアドミニストレータを配置し、学生アスリートに対する支援体制を強化するとともに、大学をあげての部活動をサポートする意識の醸成を学長以下の直轄組織として取り組んでいる。今後は大学スポーツの活動を各部だけに任せるのではなく大学全体で支援体制を構築することが重要である。

#### 4、大学スポーツの将来のために

公益社団法人全国大学体育連合が 2014 年に実施した「大学・短大における課外スポーツ活動支援に関する調査報告書」によると回答した 559 大学（393 大学、166 短大）のうちスポーツ推薦制度については 123 大学（30.5%）が実施しており、強化指定クラブを制定している大学は 122 校（30.3%）と約 3 割なる。特に強化指定クラブを設け、スポーツ推薦入試を実施している大学においては、大学スポーツの意義、所属学生の求める資質、4 年後の人物像などスポーツクラブに求めるビジョンを明確にする必要がある。ビジョンを明確にした上で以下の 4 つの観点で大学スポーツに対する支援体制を充実させて行かなければならないと考える。

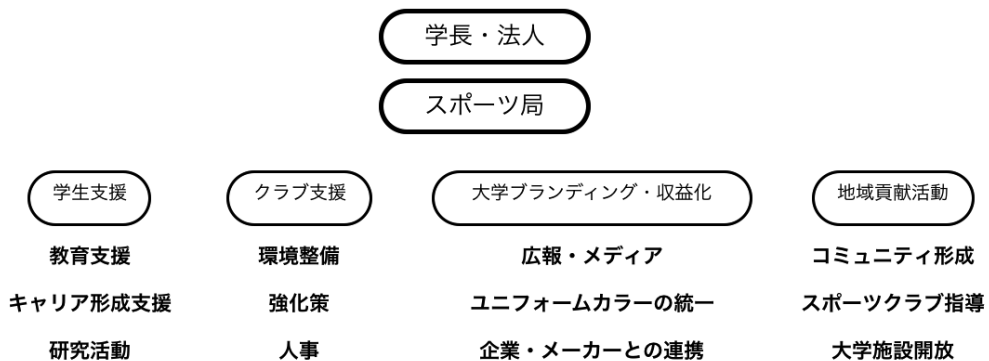


図2 大学スポーツ局構成イメージ

##### 4.1 クラブ支援

クラブの強化のために必要な支援は 1、選手獲得、2、スタッフの充実、3、施設の充実、4、経済的負担の軽減等があげられる。特に各クラブのスタッフの充実が現状では各クラブに任されている大学が多い。現在では部員が 100 名を超えるクラブも珍しくない中、部員数

に対して適切な指導者を配置することは重要である。それぞれのクラブのトップチームの指導体制は監督、コーチ等充足しているケースが多いが、トップチーム以外の所謂 B チームメンバーに対する指導体制の確立は特に重要と考える。また、トレーナー等の医療スタッフについても学生が安心安全に活動するためには必要である。指導体制の充実を各クラブに任せるとはならず大学当局あるいは大学スポーツ局等で主体的に整えることで、雇用形態の明瞭化と責任の所在の明確化に繋がり望ましい。また、指導スタッフに対する指導技術の向上のための講習会を開催や、他クラブ指導者あるいは学部教員との繋がりを作る研修会を設定することで、指導者の質の向上にも繋がるだろう。

#### 4.2 アスリート支援

学生アスリートの学業成績に対する表彰制度を設けている大学（早稲田大学、武庫川女子大学等）、学業成績による大会出場、練習時間等の制限を設けている大学（早稲田大学、関西学院大学等）など大学独自で制度を設けると同時に学生アスリートに対する修学支援制度を多くの大学で制定している。また、体育会に入部した新生に対するフレッシュマンセミナー（法政大学、関西大学等）、各クラブ幹部学生に対するリーダーズキャンプ、栄養講習会、救命救急研修など様々なアスリート支援を行うことで安心安全に文武両道に励むことが出来るであろう。

#### 4.3 大学ブランディング

プロスポーツと同様、大学スポーツも活用次第では大学のブランディングに貢献できる。また、大学スポーツを応援する雰囲気学内及び地域に醸成することで大学の一体感や帰属意識を高めることが出来ると考える。筑波大学では大学のシンボルカラーを制定し、全クラブのユニフォームカラーを統一することで一体感を出すとともに、ロゴマーク、キャラクター等でブランディングしている。スポーツメーカーと大学が契約し、ユニフォーム等のスポーツ用品のメーカーを統一し大学とメーカー共同でイメージアップを図る大学も多い。また山梨学院大学では株式会社サマンサタバサと提携し、女子学生アスリート向けの商品開発をすることで産学連携による先端的なイメージを発信している。

また、情報発信戦略も各クラブに任せるとはならず大学スポーツ局がポータルとなり大学をあげての情報発信を行うケースが増えている。また各種 SNS あるいは動画を活用した情報発信を積極的に行うことでのイメージ戦略、ブランディングに取り組む大学も多い。これまでのようにクラブ独自の情報発信だけではなく大学が戦略的に取り組むことで、より多くの情報が効果的に発信出来るとともに、統一感をもったブランディングにつなげることが出来ると考える。

#### 4.4 地域貢献及び収益化

これまで各大学のスポーツクラブは各種スポーツ教室などそれぞれ地域に貢献する活動を行ってきている。さらに大学が所有する充実したスポーツ施設と人的資源を活用し地域に根ざした総合型スポーツクラブを学内に設立している大学も増えてきている。早稲田大学では「特定非営利活動法人 WASEDA CLUB」とし各体育会所属クラブと連携した形での様々な事業を行っている。また関西大学では「特定非営利活動法人関西大学カイザーズクラブ」としスポーツだけでなく文化クラブとしての機能も果たし、大学と地域をつなぐコミュニティの役割を担っている。また国際武道大学ではスポーツ局が地元勝浦市と提携し地域活性化の一役を担っている。地域との繋がりを深めることで、地域住民が大学スポーツに対して関心をもってもらい各クラブのホームゲーム等に足を運んで応援できる機運を高めることができるであろう。さらに有料入場や応援グッズの販売等での収益化、スポンサーの獲得によるスポーツクラブの外部資金獲得も可能となる。いずれにしても各クラブ独自の取り組みではなく、大学での統一的な取り組みが重要である。

### 5 まとめ

大学スポーツの今後の発展のために取り組むべきことをまとめてみる。一つは各大学内において大学スポーツを取り巻くステークホルダー、つまり体育会所属学生、部活動のスタッフ、一般学生、一般教員、法人組織、学長等上層部が統一感をもって発展に寄与する意識の醸成が必要である。そして、その意欲を具現化するための学内組織の整備（アスレチックデパートメント）と専門性を持ったスポーツアドミニストレーター配置が重要となる。学長以下関係者が当事者意識を持ち、あらためて大学スポーツの意義や育成したい学生像を明確にすべきである。そのうえで学生たちが安心安全にスポーツに取り組めるような環境整備とルール作りが必要である。

二つ目はある意味閉鎖的な各部活動をできるだけ風通しのよい組織へと変革し、選手間、選手とスタッフ間のコミュニケーションを増やすとともに、思考の幅を広げるために他クラブ、他大学、他組織など多様なコミュニティとの積極的な交流を持つことが重要である。現状は所属しているクラブ内の仲間意識が強すぎ、逆に価値観や考え方の幅を狭めている傾向にある。多様な考えを持った者同士がリスペクトしあえる関係性の構築が重要となる。

三つ目は各大学内での部活動が活性化し所属している学生たちも主体的にかつ意欲的に行動できたうえで、大学の広報戦略やブランディングのために大学スポーツを積極的に活用していくことが必要である。情報発信、広報体制を強化し大学スポーツの活動自体をより深く知ってもらえるだけでなく、学生自身も逆に社会から注目されているという意識をもつことで

より意欲的に活動できるであろう。その先に、地域貢献や地域活性化のために近隣住民や行政との協力体制を構築するとともに、大学スポーツでの収益化を検討できると考える。いずれにしても大学スポーツとそこに所属している学生たちは大学の宝である。彼らの価値を高め、社会においてもスポーツ界においても貢献できる学生を育成するためには大学全体での支援体制の構築が重要である。大学スポーツの価値や意義について考察している研究は多くない。今後は UNIVAS 設立以後の新しいステージに入った大学スポーツのあり方、学生のために必要な支援体制等について考察を深めていきたい。

## 参考文献

- 金森史枝 蛭田秀一 (2018) 「大学における正課外活動としての体育会運動部活動の意義」— 体育会運動部活動を通して何を習得しているのか - 『総合保健体育学』 Vol. 41, No1
- 公益社団法人全国大学体育連合 (2014) 「大学・短大における課外スポーツ活動支援に関する調査結果報告書」
- スポーツ庁 (2017) 「平成 29 年度大学スポーツ振興の推進事業の成果報告書」
- スポーツ庁 (2018) 「平成 30 年度大学スポーツ振興の推進事業の成果報告書」
- 大学スポーツ協会設立準備委員会事務局 スポーツ庁 (2018) 「一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) について」
- デロイトトーマツ (2017) 「日本の大学スポーツ改革・日本版 NCAA 創設」～大学スポーツの現状と今後～
- 文部科学省 (2017) 「大学スポーツの振興」『スポーツ基本計画』 15-16

## A Study on the Development of University Sports after UNIVAS was Established

TAKASHI YOSHIDA

Until now, university sports have not been actively involved by university authorities as a student-based organization. As a result, club problems such as the corporal punishment of leaders and unclear accounting often occurred, and the responsibility was ambiguous. Therefore, the Sports Agency was established in April 2019 by the “Japan Association for University Athletics and sport (UNIVAS)”, the university sports management organization. The purpose is to create an environment and support system for students to engage in sports safely and securely. Furthermore, it aims to increase the value of university sports by promoting university branding, monetization and community contribution activities. We are also promoting the establishment of athletic departments within the university.

In this paper, we will extract the current situation and issues regarding university sports and consider the direction of future development.